

多摩市街路樹よくなるプラン改定版(原案)について

～「市民が誇る、美しいみどりの“みち”」をめざして～

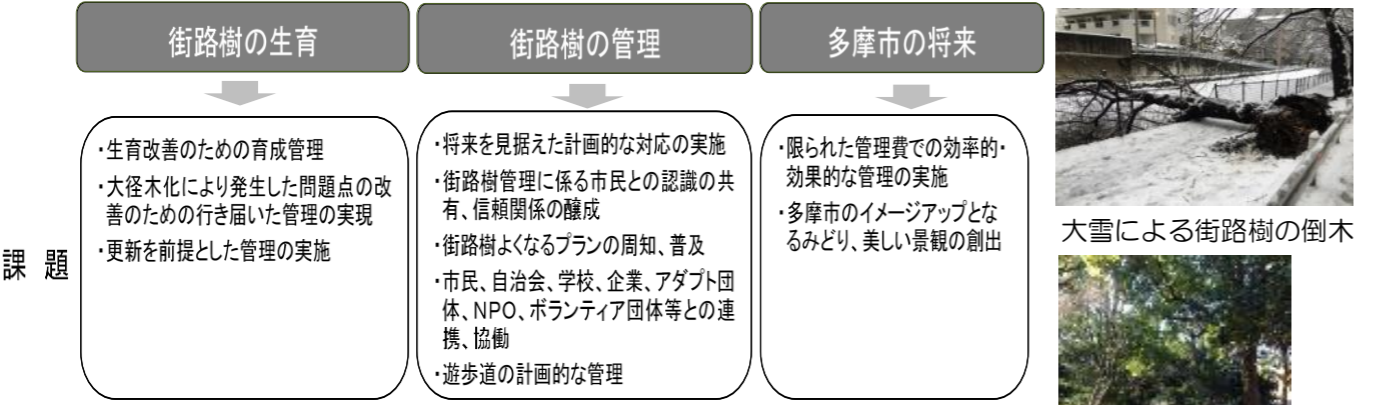
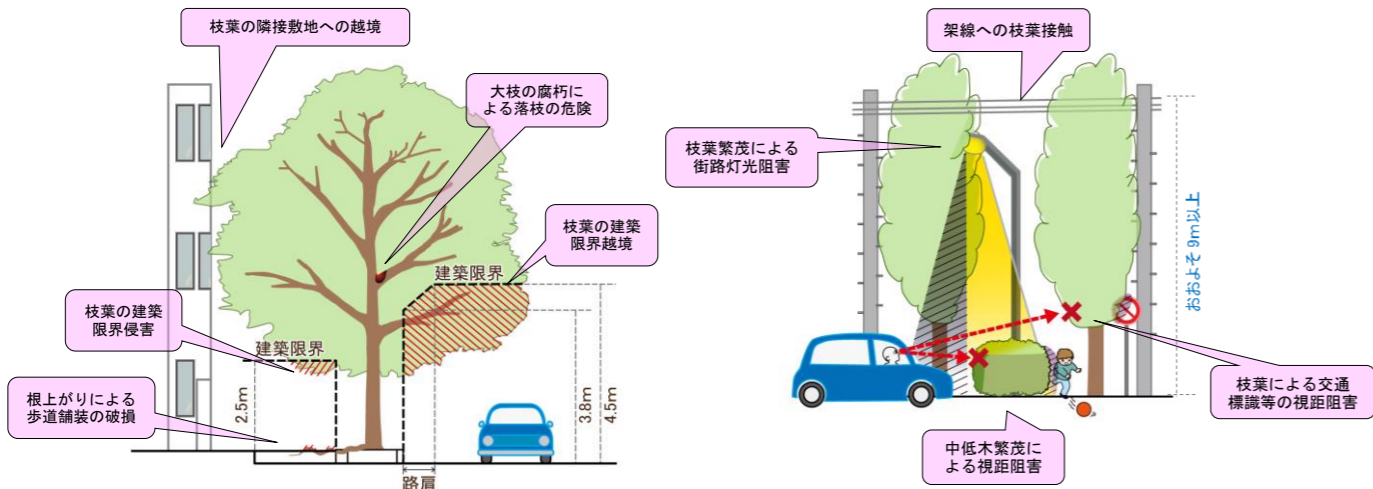
多摩市街路樹よくなるプラン(街路編)(以下、現行プランといいます)の策定から10年が経過し、管理を通じて明らかになった課題の解決に向け、改定委員会を設け、懇談会やワークショップなどにより市民の皆さんの意見を伺いながら、改定版(原案)を策定しました。

本改定版は、街路と遊歩道の両方について方針、取り組みを示した計画で、対象期間は2019年4月から2029年3月の10年間です。

1. 何が問題なの? ～街路樹の実態と課題、街路樹管理の方向性～

街路樹は、多摩市のセールスポイントである一方で、さまざまな課題を引き起こしています。現行プランに基づいて、街路樹が原因となる交通支障箇所を毎年計画的に解消してきましたが、依然としてのさまざまな支障箇所があります。特に、街路樹の大径木化がもたらす課題が顕在化しています。これらの課題を急急に対応するだけでなく、**根本的に対応することも必要**です。メリハリ(*)をつけた管理で、**健全な街路樹空間を形成**していくことがまちの資産価値の向上にとって必要です。

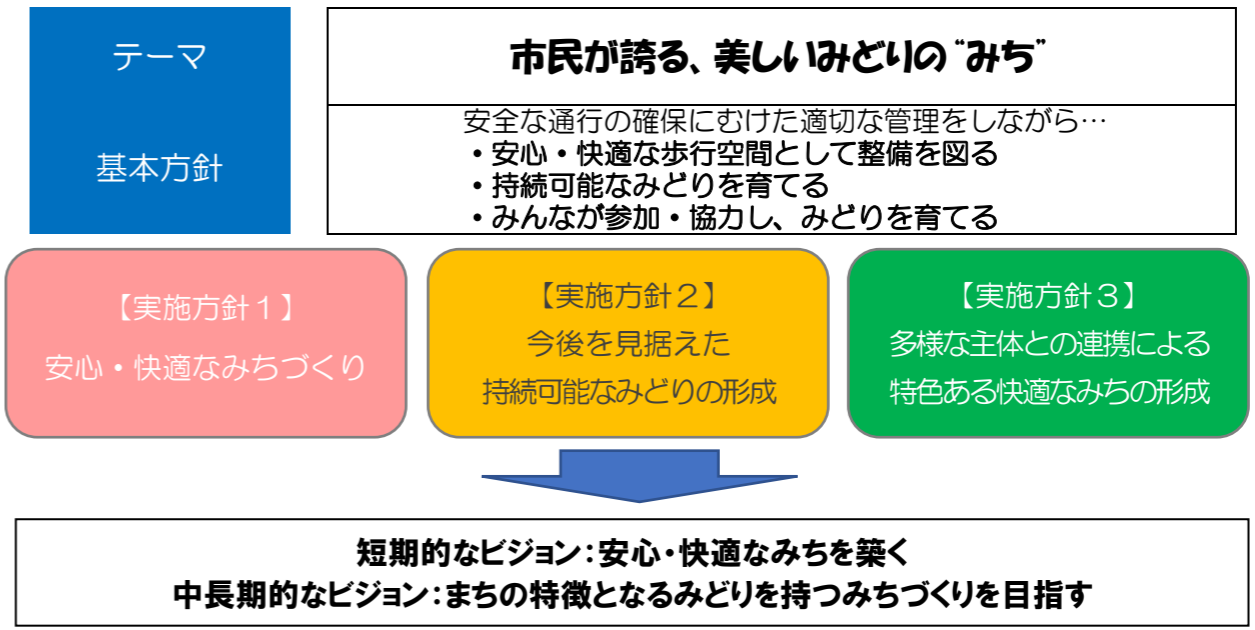
【多摩市の街路樹の問題点】



* メリハリ: 路線、樹種の特性や沿道条件をふまえて、街路樹の管理の方向性や程度(頻度)を一律なものではなく、強弱をつけたり、種類の異なるものにする。

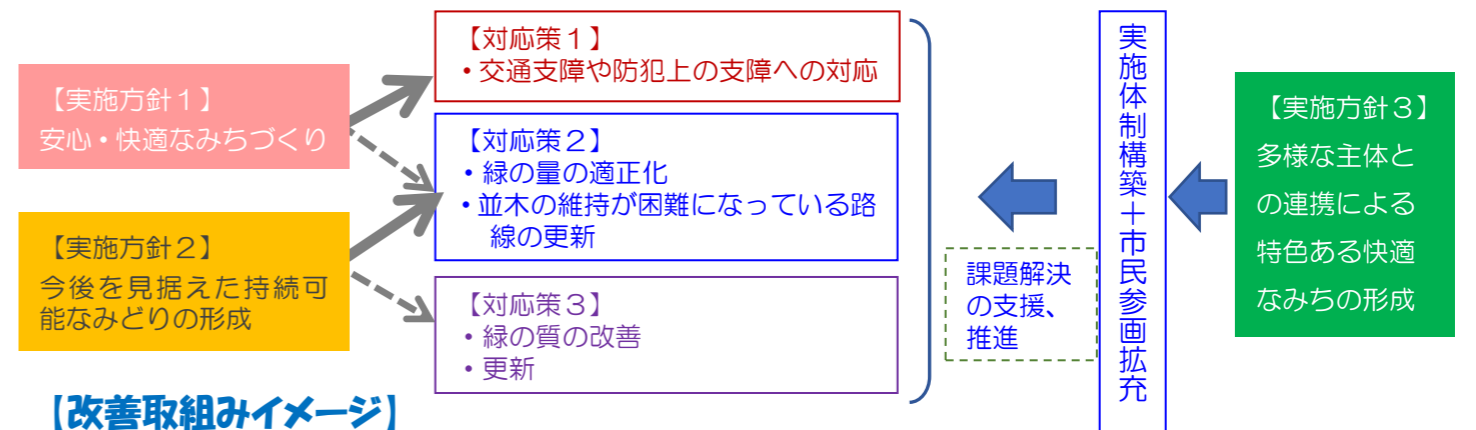
2. どういう考え方で取り組むの? ～街路樹管理のテーマ、方針、ビジョン～

多摩市のセールスポイントの一つである豊かな街路樹環境は、健全な状態に導くことでより魅力ある街並みを形成できます。また、市民が美しいと思えるみどりであれば、自らもみどりの育成に関心を持って参加し、**親しみ・愛着を持つことにつながると考えました**。そこで、以下に示す「**テーマ・方針・ビジョン**」をもって取り組んでいきます。

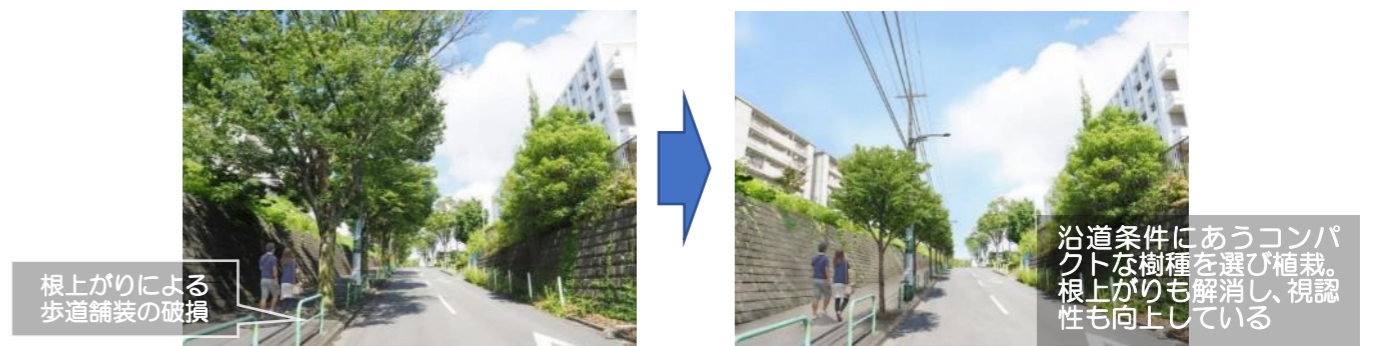


3. どうやって方針を実施していくの? ～3つの対応策と市民連携～

2. で示したテーマや方針を実現させるために、取り組むべき対応策と体制を以下の図に示しています。なお、対応策1～3に用いる改善手法として、**剪定、根上がり対策、伐採・間引き、更新**などがあります。また、実施方針3の実現に向けて、**実施体制の構築と市民参画の拡充**を進めます。



【改善取り組みイメージ】



案

4. 誰が取り組んでいくの？

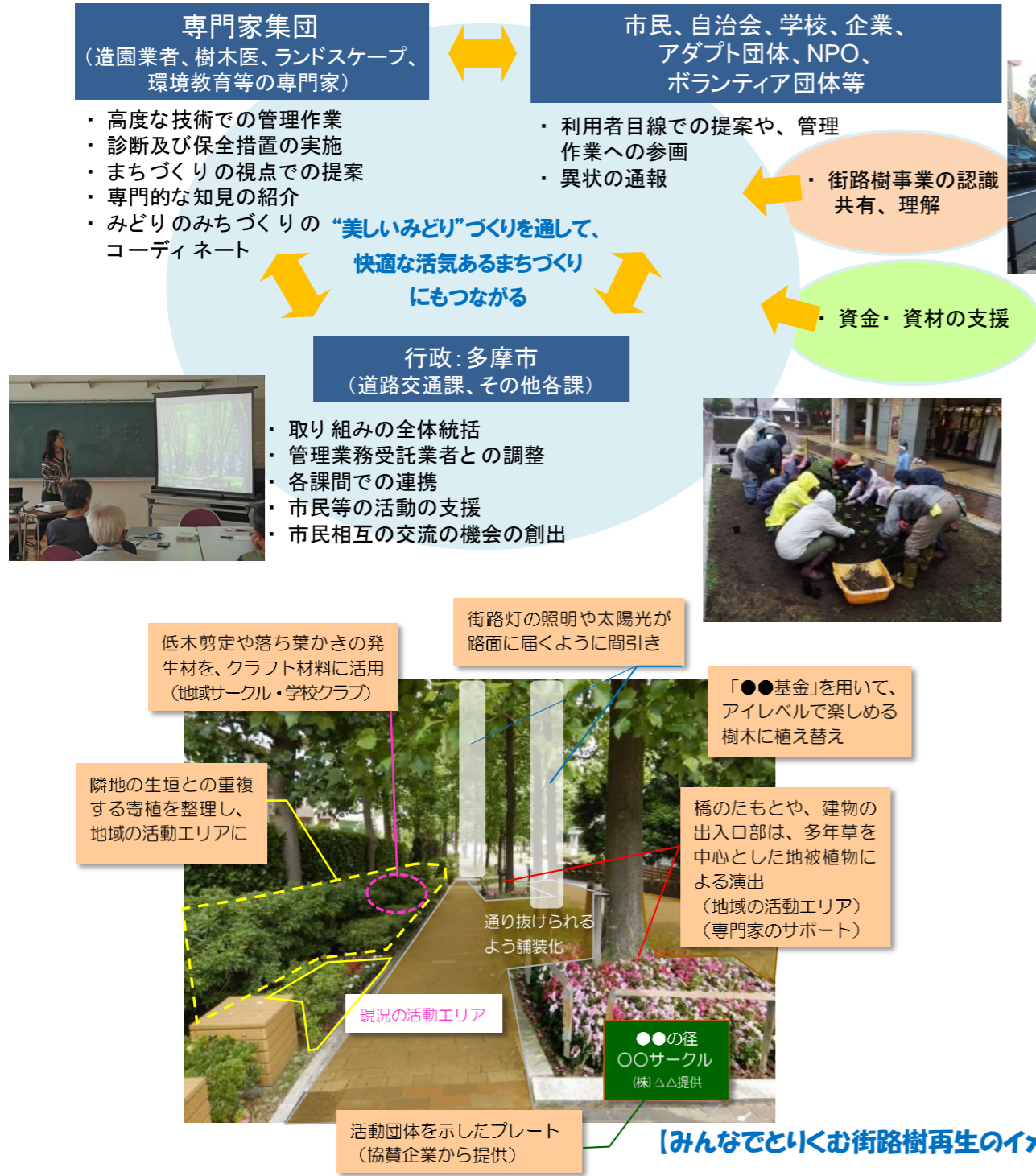
～自分たちの まち をより魅力あるまちに…いっしょにはじめませんか？～

市の全域において、街路樹の大径木化が進んだ現状では、行政が改善策を計画的に実施した場合でも、課題への対応には長い期間を要します。

目指す姿に到達するまでの時間を早めていくためには、今まで以上に、さまざまな視点で多様な主体と連携・協働しながら、道路のみどりの健全化を図り、快適なみちづくりを進める必要があります。

今までの枠組みを超えて、街路樹のある空間を活用する場面が増えることにより、街路樹の価値が向上し、道路環境の向上、更にはまち全体の価値向上にもつながります！

【多様な主体との連携・協働のイメージ】



5. 今後10年でどのように進めるの？

～改善モデル路線での試行をもとに展開、新たな財源確保や活動制度創設も視野に～

今後10年間は、従来より行っている交通安全や防犯面等の問題への対応とあわせて、新たな取り組みを同時並行で実施していきます。

①改善モデル路線での試行を新たに開始
改善手法を試行する9つの改善モデル路線を設定し、考えられる改善策を整理しました。改善モデル路線等で試行的取り組みを行い、結果を踏まえ対策を他路線等へと展開していくというのが本改定版の取り組みのポイントです。

②交通支障や防犯上の問題への対応
従来までのやり方もふまえて、毎年、計画的、かつ迅速に対応を進めます。これまでの、街路において重点的に取り組んできましたが、遊歩道についても、改善を進めていきます。

③地域連携に向けた取り組み
街路樹のファンを増やす行事を実施したり、新たな市民参画の仕組み導入に向けた取り組みに努めます。

改善モデル路線における取り組みの流れ



【改善モデル路線の例】5-74号線

主要樹木：クスノキ	評価	考えられる改善策
樹高：9.0m、枝張：6.0m	<p>Ⅱ. 今後、大径木化が一層進み、適正な管理が困難になる可能性大</p> <ul style="list-style-type: none"> 樹冠が広がり、一部で枯れがみられる 多摩センター駅周辺のみどりを特色づける常緑広葉樹 隣接施設のみどりと競合で劣勢となっている部分もみられる 根元径が植樹帯の幅に迫っている 歩道幅員が狭く樹木の成長に見合わないため、樹種の再考が望ましい 	<ul style="list-style-type: none"> 緑量の適正化を図るための間引き 隣接施設の緑と二重になる箇所での、管理者間での調整 植替え樹種の検討や、衰弱木からの順次更新実施

■取組にかかる費用・財源確保に向けた方策

街路樹は今後さらに成長することが考えられるため、管理費の増加が見込まれます。沿道条件に適した若木に植えかえなど先を見据えた取り組みを実施していくことにより、将来的には管理費用の低減にもつながります。

ただし、植え替え(更新)などには非常に多くの工事にかかわる費用を必要とします。そこで、新たな財源確保の取り組みとして、一部の自治体が入力している寄付制度の導入や、アダプト活動のさらなる活発化・新たな市民参画制度創設の検討に努めます。